

<p><b>学校教育ビジョン</b>                  「わたしもみんなも幸せになる社会をつくる人」                  1. 校訓                  2. 教育目標 ①自ら知識を求める生徒の育成 ②感性豊かな生徒の育成 ③勇気と正しい判断力を持つ生徒の育成 をする学校づくりをすすめる。                  3. 努力目標 ・生徒集団の育成 ・わかる授業の創造 ・学校内外の環境整備 ・自立を促すキャリア教育の定着・地域との連携 を推進する。                  4. 学校運営方針 ①生徒が活躍できる学校 ②不登校生徒の減少 ③学力保証 ④生徒も先生も心豊かされる環境づくり ④規律ある生活を目指し、以下の項目を重点に取り組む。</p>								
---	--	--	--	--	--	--	--	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
①教育課程・学習指導	学力向上に向けた改善の取り組み	県基礎学力・全国学力調査の結果から、分析、検証を行いPDCAサイクルに基づいて、学力向上を図る。	教務主任	昨年度の取り組みで、学力向上に対する学校全体での組織的な運営ができあがりつつある。今後は、各学年の系統的な取り組みの強化が求められる。	教職員アンケート(成果指標) 検証・分析、課題の共有、実践、評価のPDCAサイクルが機能し、取組の質・量が高まったか。	学習向上に向けた指導の工夫と改善はできたか A=70%以上 B=60%以上 C=50%以上 D=50%未満	C、Dのときは、改善策を検討する。	2、3学期末教職員調査
	生徒一人ひとりがわかる授業の創造	授業のめあてや振り返りを重視し、生徒たちに授業がわかったという達成感を持たせるようにする。	教務主任	生徒の学習に取り組む姿勢は良くなってきたものの、学習の理解度、達成感についてはまだまだ不十分なところもある。	生徒アンケート(成果指標) 全生徒に授業のめあてがわかる授業づくり/わかる授業づくりを行ったか。	授業のねらいが明確だと感じた生徒の割合や授業がわかりやすいと感じた生徒の割合が A=70%以上 B=60%以上 C=50%以上 D=50%未満	C、Dのときは、校内研修会等で改善する。	1、2学期末生徒調査
②生徒指導	生活目標である「時を守り、場を清め、礼を正す」ことができる生徒を育てる。	生徒会、教職員が意識的に取り組むとともに、挨拶運動などでPTAとも連携をとる。	生徒指導主事	多くの生徒は生活目標を理解しているが、それを実行に移す段階である。	生徒アンケート(成果指標) ①時間を守って行動できたか ②係や当番の仕事をまじめに取り組めたか。 ③すすんであいさつができたか。	各項目とも A=80%以上 B=70%以上 C=60%以上 D=60%未満	C、Dのときは取り組み方法を再検討する。	生徒調査を1、2学期に行う。
	いじめなど嫌なことがなく、友だちと楽しく学校生活を送ることができる。	生徒の力を活用すると、「生徒指導の3機能」を生かした授業に取り組む。	生徒指導主事	落ち着いた学校生活であるが、いじめは「無い」とは言い切れない。	生徒アンケート(努力指標)【加賀市共通調査】 ①学校で友だちに会うのは楽しいと思えますか。 ②あなたは、まわりの人に親切にしたり、優しくしたりしていますか。	各項目とも A=80%以上 B=70%以上 C=60%以上 D=60%未満	C、Dのときは取り組み方法を再検討する。	生徒調査を1、2学期に行う。
③進路指導・キャリア教育	系統的な生き方指導を通じて主体的に進路選択をする能力・態度を育成する。	・1年生は職業調べ、2年生は職場体験、3年生は高校体験入学や高校説明会などの取り組みを行う。 ・活動内容は、レポートにし掲示していく。	進路指導主事	ボランティアなどが盛んで人の役に立ちたいと考える生徒が多い反面、自己肯定感が低く、自分の将来を見据えて主体的に活動等に取り組むことができる生徒が少ない。	生徒アンケート(努力指標) 総合的な学習の時間や道徳の時間などを通して、自分の将来の生き方や進路について考えることができたか。	「自分の将来の生き方について考えることができた」と答えた生徒が A=80%以上 B=70%以上 C=60%以上 D=60%未満	C、Dのときは取り組み方法を再検討する。	生徒調査を1、2学期に行う。
④安全管理	登下校時を中心に交通マナーの向上に意識が向くようにする。	・交通安全教室や登下校指導を通じ、交通マナーについて見直す機会をつくる。 ・今年度は下校指導も行う。登校時の交通安全指導と同様に、校下各所に教員を配置し巡回指導を行う。	交通安全担当	自転車の並列走行で下校する生徒が多い。また、ヘルメットをかぶらずに通行する自転車通学生も一部存在する。大きな事故はないが、車や自転車との接触事故がまだにある。	生徒アンケート(成果指標) 交通安全教室や登下校指導を通して、生徒の交通マナーに対する意識の向上が見られたか。	交通マナーを意識するようになったと答えた生徒が A=80%以上 B=65%以上 C=50%以上 D=50%未満	C、Dのときは、取り組みを再検討する。	1、2学期生徒調査アンケート
	避難訓練を通して、教職員が非常事態の時に連携をスムーズにして行動できるようにする。	年2回の避難訓練を通して、非常事態時に落ちついて行動できるという実感を持たせる。そのために係を事前に決めず、管理職が臨機応変に指示を出す避難訓練を行う。	防災担当	生徒の防災の意識は高まっているが、教職員が大きな災害が起こったときに、さらにスムーズに連携して行動できる必要がある。	教職員アンケート(努力指標) 避難訓練を通して、管理職の指示のもと、適切に行動できたか。	避難訓練を通して、管理職の指示のもと、適切に行動できたか A=70%以上 B60%以上 C50%以上 D50%未満	C、Dの時は具体的な取り組みを考える。	2、3学期教職員アンケート
⑤保健管理	歯の健康状態に関心をもち、治療率向上や予防につながる保健指導の充実を図る。	・保健委員会を中心に、給食後の歯みがき指導を勧める。(特に1年生) ・歯科検診の結果をすみやかに生徒に伝え、早期治療の呼びかけを行う。	保健主事	・歯科検診の結果をうけて治療を勧めるが、治療率が50%以下と非常に低い。校内に歯みがき週間を設け、取り組んだが、実施率は全体で10%である。歯の健康に対する意識が非常に低いと思われる。	生徒アンケート(成果指標) 学校全体で歯の保健指導に取り組み、生徒の歯に対する健康意識の向上が見られたか。	歯の健康状態に関心をもち、予防や改善に向け実践することができたか A=50%以上 B=30%以上 C=10%以上 D10%未満	C、Dの時は具体的な取り組みを考える。	1、2学期生徒調査アンケート
⑥特別支援教育	支援シートなどから特別に配慮が必要な生徒への支援、目標を明確にし、学校全体としての支援体制のあり方を工夫する。	個別支援シートの充実を図りながら、生徒理解の会や学年会などの機会を通じて情報交換を密にして共通理解を図る。	特支コーディネーター	集団の中での学習に困難をおぼえる生徒が各クラス複数存在する。教室の中での支援、また個別支援を有効かつ現実的におこなえるよう検討する必要がある。	教職員アンケート(努力指標) 特別な支援を必要とする生徒に対し、適切な支援を行えたか。	特別な支援を必要とする生徒に対し、生徒の実態に応じた支援を行ったか A=80%以上 B=65%以上 C=50%以上 D=50%未満	C、Dのときは具体的な取り組みを考える。	2、3学期教職員アンケート
⑦組織運営	教職員が生徒に向き合える時間を確保するため、校務の効率化を推進する。	校務分掌に関わる情報ファイル共有システムによる情報の共有化と校務の効率化を図る。	教頭	PCの共有フォルダーの設置による情報ファイルの共有化と活用化が図られている。本校の実態に即した有効的な校務分掌の組織改善を行っている。	教職員アンケート(努力指標) 組織的な学校運営を目指した校務分掌の任務や運営が行えたか。	効率化が推進されていると答えた教職員の割合(4段階の上位2段階) A=70%以上 B=60%以上 C=50%以上 D=50%未満	Aに達しなかったとき、システムの再構築を検討する。	2、3学期教職員アンケート
⑧研修	学びの実感をもてる授業の改善に取り組む。	校内研究・研修の充実を図り、授業づくり・学習基盤づくりに努める。	研究主任	もっと学校全体で、組織的・計画的な取組にしていける必要がある。	教職員アンケート(努力指標) 授業改善に取り組むことができたか。	授業改善に取り組めたという教員が A=80%以上 B=65%以上 C=50%以上 D=50%未満	C、Dのときは具体的な取り組みを考える。	2、3学期教職員アンケート
⑨保護者、地域との連携	教育活動の状況を広く公表し、学校への理解を深める。	学校ホームページ・学校からの各種情報発信を充実させる。	教頭	・学校側から各種の情報発信を行い連携を図っている。緊急メール発信の体制も確立し有効活用ができています。 ・学校側から各種の情報発信を行い連携を図っている。緊急メール発信の体制も確立し有効活用ができています。	保護者アンケート(成果指標) 学校だより・学年だより、ホームページ、メッセージ等で、学校の様子が明確且つ丁寧に伝わっているか。	学校の様子がわかりやすいと答えた保護者の割合(4段階の上位2段階) A=70%以上 B=60%以上 C=50%以上 D=50%未満	Aに達しなかったとき、情報発信の方法を再検討する。	1、2学期保護者アンケート
⑩教育環境整備	学校安全点検を定期的実施し、安全な施設になるように整備する。	各学期1回安全点検を実施し、破損状況等を早期に把握し、計画的に改修する。	健康・安全委員会	校舎の老朽化もあり、さまざまな箇所破損が見られる。生徒の安全を第一に環境改善を行う必要がある。	教職員アンケート(努力指標) ・校内の管理箇所点検を定期的に行えたか。 ・校舎の修繕を協働で行うことができたか。	定期的/協働的に行えたか A=70%以上 B=60%以上 C=50%以上 D=50%未満	Aに達しなかったとき、原因を分析し、校内整備システムを検討する。	2、3学期教職員アンケート